

J A B T Newsletter

発行所 日本行動療法学会
〒305-8572 つくば市天王台1-1-1 TEL0298-53-6719
筑波大学心身障害学系杉山研究室内
振替口座 00390-9-30064 加入者名日本行動療法学会
発行責任者 上里 一郎
編集責任者 瀬戸 正弘

【主要目次】

1. 日本行動療法学会第25回大会-盛況裡に終わる
2. 行動療法コロキウム'99 イン新潟
3. 2004年世界行動療法認知療法会議-神戸で開催
4. 私の戦場 (3)
5. 平成12年度資格認定委員会主催事業についてのお知らせ
6. 事務局だより

日本行動療法学会第25回大会 (目白学園研心館) —日本の行動療法～過去・現在・未来— 盛況裡に終わる

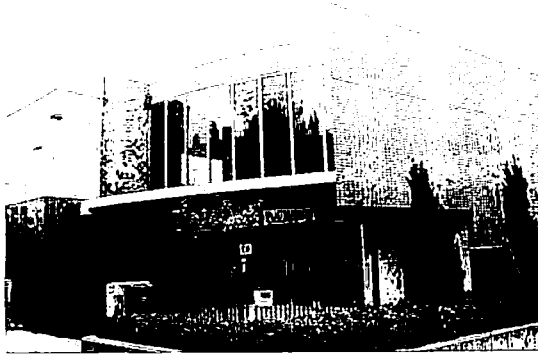
第25回大会会長 福島 脩美
(東京学芸大学BT研究会)

日本行動療法学会第25回大会は、東京学芸大学BT研究会の主催で、東京都新宿区にある目白学園研心館で3日間(11月25日より26日までが大会、26日の夕方と27日は研修会)にわたって行われた。本大会は、開催地が東京都の中心部にあったこともあり、開催前から多くの会員や一般の人の関心を集め、多くの問い合わせがあったことは、準備段階からの大きな喜びであった。実際、大会当日には306名(うち会員213名)、研修会には219名(会員173名)と予想を超えた数の参加者があった。年次大会が今年で、第1回目から数えて四半世紀となる第25回目を迎えることから、大会の基調テーマは「日本

の行動療法—過去・現在・未来—」とした。

大会の企画は2つの記念講演と2つのシンポジウムであった。記念講演は筑波大学名誉教授内山喜久雄先生の「日本の行動療法—四半世紀を振り返って—」であり、大会会長講演は「行動療法とカウンセリング」であった。

シンポジウム1は「行動療法家を育てる」で、司会の吉備国際大学の小林重雄先生のリードで、シンポジストの国立肥前療養所の山上敏子先生、東京大学の久保本富房先生、文教大学の今野義孝先生等によって、行動療法家の養成や臨床的な能力を高めるための方法や実践について熱心な討論がなされた。シンポジウム2は「最近の学校問題にどう取り組むか」というテーマで、東京学芸大学の小林正幸先生の司会によって、シンポジストの昭和女子大学の鶴養啓子先生、東京学芸大学の大河原美以先生、新潟大学の神村栄一先生を中心に、現在の学校現場での臨床の問題、アプローチの方法などについて活発な議論があった。



個人発表も、ポスター発表が45題、口頭発表が15題、ケーススタディが3題という多くのエントリーがあり盛況であった。さらに25日の夜に行われた懇親会にも予想を上回る参加者があり、楽しい時間を過ごした。

最後にこの大会のために、郵便物の発送、大会のための通信やプログラムの作成や発送、器物の運搬、受付などに多くの学芸大学の学生諸君が裏方として、献身的な働きをしてくれたことを付け加えておきたい。またすばらしい会場を快くお貸しいた頂き、懇親会のビールをはじめ、様々な援助を与えて下さった目白学園にも深くお礼を申し上げたい。

行動療法コロキウム'99イン新潟

参加者の印象記(1) -心に深い印象を残して-

稲毛心理教育研究所
川井 和子

例年開催されている【行動療法コロキウム】なるものに、今回(8月30日~9月1日)初めて参加した。2泊3日新潟の温泉で、と聞いた時、学生時代に参加した半ば軟禁状態ともいえるグループ体験合宿(他団体主催)のイメージが一瞬脳裏をかすめた。だが「日本海側だ、刺し身料理は美味であろう」「この学会主催なら期待外れの症例検討はあるまい」と参加に至った。

ところが直前に某セッションの指定発言者に指名されてしまう。しかも、杉山雅彦先生が最初のセッションで指定発言者として格調高いモデルを示されたため、「事務局の期待に添えるような役割を私が取れるのだろうか」と不安で一杯のスタートであった。

幸い担当したセッションは、嶋田洋徳先生(発表者)と土肥由美子先生(司会者)のお力により進行

して無事終了。5年間担当したスクールカウンセラーとしての経験について当方からも紹介することができたと思う。貴重な体験の機会をありがとうございました。

さて今回のコロキウムのヤマは、2日目午後のミニ・シンポジウム「『行動療法家』をめざす：何を学ぶか、いかに学ぶか」ではなかっただろうか。この大胆でストレートな表現は、地元(千葉)で地味な臨床活動をする私にとっては胸に秘めておくだけの言葉。口に出してしまうのはちょっと恥ずかしいような、しかしやはり魅力的なテーマである。2時間足らずではあったが、話題提供者の先生方の貴重な体験談・熱き思い、そして歩んでこられた道についてお聞きして、21世紀への一筋の光が見えたような感じさえた。

結局月岡温泉の散策どころかホテル「ひさご荘」から私は一歩も外出することはなかったが、おへそのゴマが白くなるまでこっそりと温泉に足を運んだはずである。半年近く経過した現在でも自分の心に深い印象を残しているものは、事務局・嶋田洋徳先生のマイクを手にされた凛々しい浴衣姿だけではなかった、と改めて実感している。

参加者の印象記(2) -参加したら病みつきになる会-

金沢大学大学院 社会環境科学研究科
荒木 友希子

行動療法コロキウム'99イン新潟は、金沢、志賀島、函館に引き続き、4回目の開催となった。今回の参加者は計44名、そのうち学生が27名と、半数近くの参加者が行動療法の初学者であった。私は、第一回目のコロキウムのお手伝いをさせていただいたのだが、4年前のコロキウムと比較して、第一回目には参加されていたベテランの諸先生方の参加が少なくなったように思われた。私のような地方

大学の学生が広く多く仲間をつくることのできる反面、ベテランだからこそその貴重なお話を伺える機会が以前より減った気がした。また、大学関係者の参加が多く、病院臨床の先生方の参加が比較的少ないのは、平日開催が関係していたのだろうか。

今回は、事務局の企画したミニシンポジウムとして、「行動療法家」をめざす：何を学ぶか、いかに学ぶか”をテーマに、非常に活発な熱い議論が行われた。様々な領域で活躍されている4名の話題提供の先生方が実際にどのように行動療法を学んでこられたのか、といった具体的なエピソードは、初学者には大変参考となった。実は、コロキウム最大の楽しみは夕食をかねた懇親会である。今回は2日目の夕食の席で、「全員発言すること」という理事長のお達しのもと、Eメールを駆使して準備を取り仕切っておられた事務局の嶋田洋徳先生による発言有無チェックが入った。まだ発言していない参加者は壇上に並べられ、順番に発言を求められた。参加者、特に学生参加者の能動的態度の維持・向上のため、これは今後ともぜひ続けてもらいたいものである。

最後に、症例の発表者を募るのに事務局は大変な思いをされていることを承知のうえで、一言申しあげる。症例の内容について、事前にお知らせいただけると非常にありがたい。なぜなら、私のような初学者は、前もってどのような症例が提示されるのか知っておくことによって、予習をし、自分なりの問題をもってコロキウムに臨めるからである。

行動療法コロキウムとは、一度参加したら、病みつきになってしまうくらい、魅力的な会である。今後コロキウムを開催し続け、さらに有意義ですばらしいものに発展することを願ってやまない。

2004年世界行動療法認知療法会議 (WCBCT' 2004) - 神戸で開催 -

国際交流委員会委員長
丹羽 真一

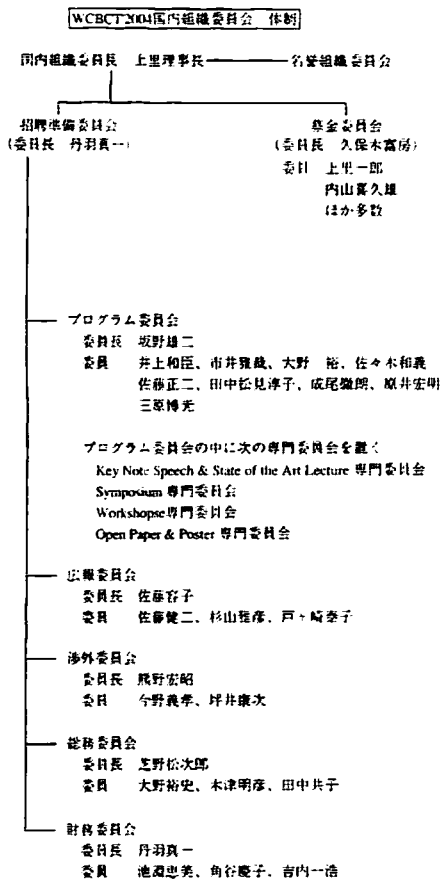
2004年世界行動療法認知療法会議(WCBCT' 2004)は日本行動療法学会が主催して2004年7月に神戸で開催されます。

99年に福島先生(東京学芸大学)が会長で東京で開催された第25回日本行動療法学会時の総会でも報告されましたが、99年11月にトロントで開催された「世界行動療法認知療法会議開催のための委員会 World Congress Committee (WCCと略)」において、2004年の世界行動療法認知療法会議(World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2004、WCBCT'2004と略)を日本で開催することが決定されました。

日本行動療法学会は、WCCに対して開催場所を神戸とすることを提案しておりましたので、WCCのこの決定を受けて神戸国際交流協会と相談した結果、2004年7月20-24日に神戸国際会議場および隣接する神戸商工会議所会館にてWCBCT'2004を開催することになりました。

WCBCT'2004の開催地が決定されるのは2001年であろうと予測されておりましたので、一年早い決定には少し驚かされましたが円滑な準備のためには有り難いことです。常任理事会としては準備の取り組みを一年早めて進めて行きたいと考えております。既に第25回大会総会ではWCBCT'2004の招聘と開催準備のために、WCBCT'2004国内組織委員会を次のように設けることが決定されておりますので、このニューズレターで改めて御紹介させていただきます。なお国内組織委員会は当面の間、日本行動療法学会理事全員と常任理事会から必要に応じて指名された会員により構成されることになっております。

WCBCT2004 国内組織委員会 体制



なお、現在各委員会が開催されており委員の補充を進めておりますので、各委員会委員は上記に加えて更に追加される予定ですから御承知おき頂きたいと存じます。また名誉組織委員会には日本行動療法学会ほか関連する諸学会から有力な方々にお願いして委員に御就任頂く予定です。学会会員の皆様には今後いずれかの委員会に所属いただいたり、協力を御願ひして行くことになろうかと思ひます。

申し遅れましたが、99年11月のトロントでのWCCには国際交流委員の坂野雄二、熊野宏昭会員に出席していただきました。芝野松次郎会員は体調の都合により出席できませんでしたが、坂野、熊野会員が出席して招聘のために奮闘されました。御苦勞に感謝申し上げます。

またこれからの準備には色々大変なことが多く

なってくるものと予想されますので、会員各位の御協力を切に御願ひいたします。

最後に、2004年の前のWCBCTは来年(2001年)7月17-21日にカナダ・バンクーバー市にてAABT (Association for Advancement of Behavior Therapy)のDr. Arthur Freemanが国内組織委員会委員長となって開催されます。2004年の神戸での大会に多くの外国からの参加を求めるためにも、WCBCT2001に日本行動療法学会会員がなるべく多く参加されるように御願ひいたします。WCBCT'2001の開催要項は以下のとおりです。

バンクーバーにおけるWCBCT'2001の開催要項

会期 2001年7月17日(火) - 21日(土)

会場 Sheraton Wall Centre, 1088 Burrard Street,
Vancouver, B.C., Canada

公用語 英語

各種締め切り日

- Submission of symposia, panels and posters

October 15, 2000

- Submission of workshops

September 15, 2000

連絡先

AABT: (212) 647 1890, FAX (212) 647 1865

<http://www.aabt.org/wcv2001.html>

私の職場 (3)

浜松市発達医療総合福祉センター
臨床心理士 笹田夕美子

私の勤務する浜松市発達医療総合福祉センター(以下、センター)は、平成4年7月、のびやかに流れる天竜川のほとりに開設された施設です。センターは、療育センターと、身体障害者福祉センター、その他、5つの通所施設(知的障害者更生施

設、身体障害者授産施設 (B型)、心身障害児通園施設、重度障害児者生活訓練ホーム、心身障害者小規模授産施設) から構成されています。療育センターには、附属診療所が併設されており、小児神経科、精神科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科の診療が行われています。

はじめて私がセンターの名前を聞いたとき、「ハママツシハッタツイリョウ…」という名称の長さ思わずうなってしまった覚えがあります(私の両親は、私の就職後もしばらくは「娘は、福社会館のようところに勤めているらしい。」と理解していたようです)。しかし、この長い名称には、障害児・者の福祉向上を目指して、障害の早期発見、早期療育を基本に、相談から医療、社会復帰までの一貫したリハビリテーションの機能と在宅心身障害児・者の自立更生、社会参加への意欲を培う場を提供する総合福祉施設としての意気込みが込められていたのです。

現在、私は、臨床心理士として療育センターに所属しています。療育センターでは、他に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士が医師の指示のもとで、個別評価、指導、訓練、相談を行っています。また、保育士を中心とした外来療育グ

ループも行われています。療育グループは、ダウン症など染色体異常児のグループ、精神遅滞児のグループ、肢体不自由児のグループの3種があり、対象となる児には、就園まで、週一度、母子同伴で療育が行われます。ここには、前述した専門スタッフや保健婦も参加し、多職種の専門的視野から、ケースのニーズに沿ったフォローを実施しています。これは、スタッフにとっても他職種の職能を理解し、ケースへの知見を深める貴重な場となっているように思います。私達、心理職の療育グループでの役割の一つに、母親のグループワークの企画・実施があります。これは、毎月一度、各専門職やグループOBの母親から療育や進路の話の聞いたり、母親同士の情報交換の場として提供しているものです。グループでは、子どもたちの成長はもちろんですが、母親同士が他ではなかなか言えない思いを共感しあい、わが子や障害の特性への理解を深めていかれる姿を目の当たりにします。私達、専門職が同じことを語っても伝わらない部分が、母親同士のかかわりの中で、無理なく浸透していく様子に自助グループとしての機能の重要性も感じるところです。その他、療育センターでは、学童のグループや、おもちゃ図書館、絵画・造形教室、リトミック教室なども実施



センター正面



多職種で構成される療育課
「各職能を象徴するものを1つ持ってきて…」という指示でこうなりました。



浜松市発達医療総合福祉センター内

しています。また、浜松市と当センターが共同で行っている知的発達障害児保育者研修会は、一般の保育所、幼稚園の現職保育者を対象に、講義と実習を含んだ特色あるプログラムとして好評です。

センターは、今年で9年目に入り、利用者の数も増加し、対象も多様化してきました。心理に依頼されるケースでも、不登校や虐待、精神科領域の患者さんなどへのかかわりも増えてきています。ますます広がるニーズに、限られた診療時間の中で、効果的にどう対応するかが今後の大きな課題です。

平成12年度資格認定委員会主催事業 についてのお知らせ

資格認定委員長 今野 義孝

1. 中級研修会について

(1) 講師および司会者

平成12年度第5回中級研修会の講師および司会者として、下記の認定行動療法士の方々を予定しております(敬称略)。

講師：宮崎 真、佐々木 和義

司会：大野 裕史、杉山 雅彦

(2) 日時

平成12年8月3日(北海道で開催される第26回大会2日目の午後5時30分から8時まで(研修会Aと並行して行います)。

*テーマや会場等の詳細については、後日お知らせします。

2. 事例研究相談コーナー(仮称)

(1) 開設の主旨

今年度の大会から、大会会期中に、認定行動療法士が一般会員の事例研究の相談に応じる「事例研究相談コーナー」を開設することになりました。これには、認定行動療法士の存在を一般会員に周知徹底

させるねらいと、学会における認定行動療法士の役割を確立するねらいがあります。

(2) 担当者

心身障害系、心理系、医学系から、それぞれ1ないし2名の認定行動療法士に担当していただく予定です。

(3) 日時

今年度の大会では、第1日目のポスター発表と並行してコーナーを開設したいと考えております。

会員の皆様の積極的な参加をお願いします。

事務局だより

(1) 第26回大会(会場：札幌市)について

第26回大会は、岩本委員長の元で着々準備が進められています。大会の会期は、8月2-4日で研修会もこの中で開催されます。プログラムには、大会会長の「学習理論と行動療法」、講演1「行動療法という治療手段」(山上敏子氏)、講演2「教育に生かす行動療法」(小林正幸氏)などこの他に、シンポ2、ケーススタディ3、口頭発表、ポスター発表などが予定されています(大会ホームページは、<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~nss/jabt26/>です)。

(2) 機関誌・大会発表論文集掲載論文の転載について

本学会機関誌・大会発表論文集等に掲載された論文を転載および複製する場合には、本学会事務局へ必ず許可を願い出るようお願いいたします。

(3) ニューズレター掲載記事の募集について

ただ今事務局では、ニューズレターに掲載する記事、情報等を募集しております。会員の皆様からのご連絡をお待ちしております。